生徒指導課だより

ー第１号ー

～鹿高生が日々の振り返りをするためのエッセンス～

２０１９．５．１６

『挨　拶』

おはようございます。こんにちは。
お願いします。有り難うございます。
失礼します。

一日に何回挨拶をしていますか？おそらく、数えきれない回数だと思います。２０代前半の頃、沖縄県の我喜屋優（がきやまさる）さんという優れた指導者の方に「社会人として新入社員を受け入れるにあたり、できて欲しい事は何ですか？」という質問をしました。我喜屋さんは**「挨拶です」**と即答されました。つづけて、**「挨拶とは、パスポートを見せることと同じで、出会った相手に対して、自分の気持ちを表明するもの。パスポートを見せなければ入国させてもらえない。人間関係も同じように、挨拶をしないとお互いに認め合えない。だから、相手に対して自分を示してお互いに敬意を示せることが人として大事。」**と教えてくださいました。日常の何気ない事のように思われるかもしれませんが、「挨拶がどれだけ大切であるか」がよくわかるお話だと思います。

公安委員長をはじめ公安委員会が一丸となって**「石川県１挨拶のできる高校」**にしていきます。皆さんで、気持ちの良い校風を作り上げましょう。

『努　力』

「どんな人でも一隅（いちぐう）を照らすだけの力量を与えられてこの世に生まれてきます。自分が生きているその場所で、せめて一隅を照らそうと取り組んだら、どんな人でも一隅を照らせるようになっています。でも、最初は多くを望むのではなく、自分の持ち場で一隅を照らそうと努力するんです。それができるようになり、評価されて、今度はより多くの人とより広い範囲で仕事をするようになります。そこでも一隅を照らせるようになると、また引き上げられて、さらに広い範囲でより多くの人と仕事をするようになります。しかしながら、すべては足元の一歩から始まるんです。」
（安岡正篤（やすおかまさひろ）氏）

誰でも、何か一つは誰かのために役立てることができる力（長所）を持って生まれてきています。今、鹿西高校で自分にできることを一生懸命に取り組んだら、誰でも社会に貢献できるようになります。そうすると、ちょっと上のステージにレベルアップして勉強や部活動人間関係を築くことができます。そこで一生懸命に心を込めて積み重ねれば、またちょっと上のレベルで生活できるようになります。こうやってどんどん成長していくのです。

でも、どんなにすごいことも、すべては目の前のことを一生懸命頑張ることから始まるんです。というような内容の文章でした。

あなたの持つ長所を磨き高めて、一人でも多く誰かのために活用できたら、どれだけ素敵でしょう。